

1. 浦添市都市交通マスタープランとは

本市の「第五次浦添市総合計画」や「浦添市都市計画マスタープラン」等で示すビジョンの実現に向けて、国、県、広域行政圏の上位計画及び交通に係る計画等と連携を図りつつ、浦添市の交通状況を考慮した道路・公共交通・歩行環境等の交通体系・交通施策のあり方について検討を行い、目指す方針やそれを実現していくための施策、施策を評価するための指標等を位置付ける計画です。

2. 目標年次

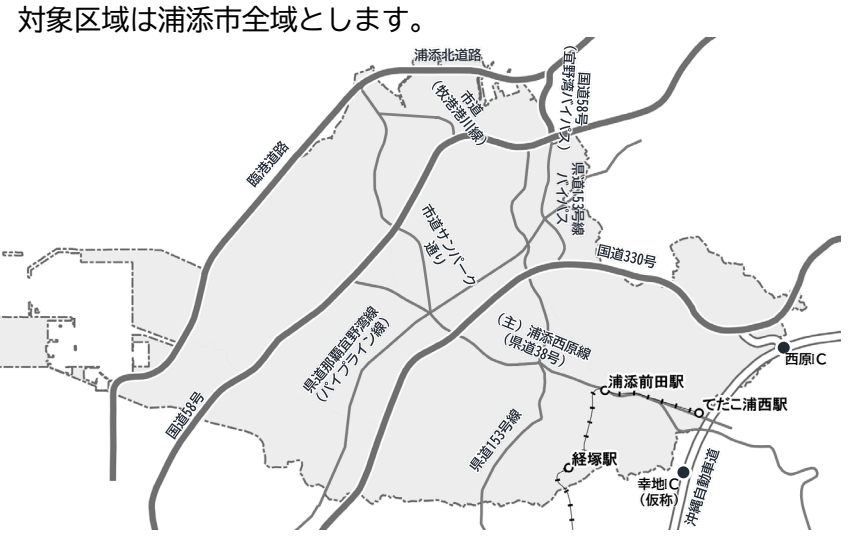
20年間の交通体系・交通政策の在り方を示す計画です。

現行計画は、2011年（平成23年）～2030年（令和12年）を計画期間としています。

今回は、県の都市交通マスタープランの政策や浦添市都市計画マスタープラン（基地の跡地利用を想定（※））を踏まえ、見直しを行い、目標年次を2045年（令和27年）へ更新します。

（※）牧港補給地区跡地利用計画の見直しの際には必要に応じて本計画も見直しを行う

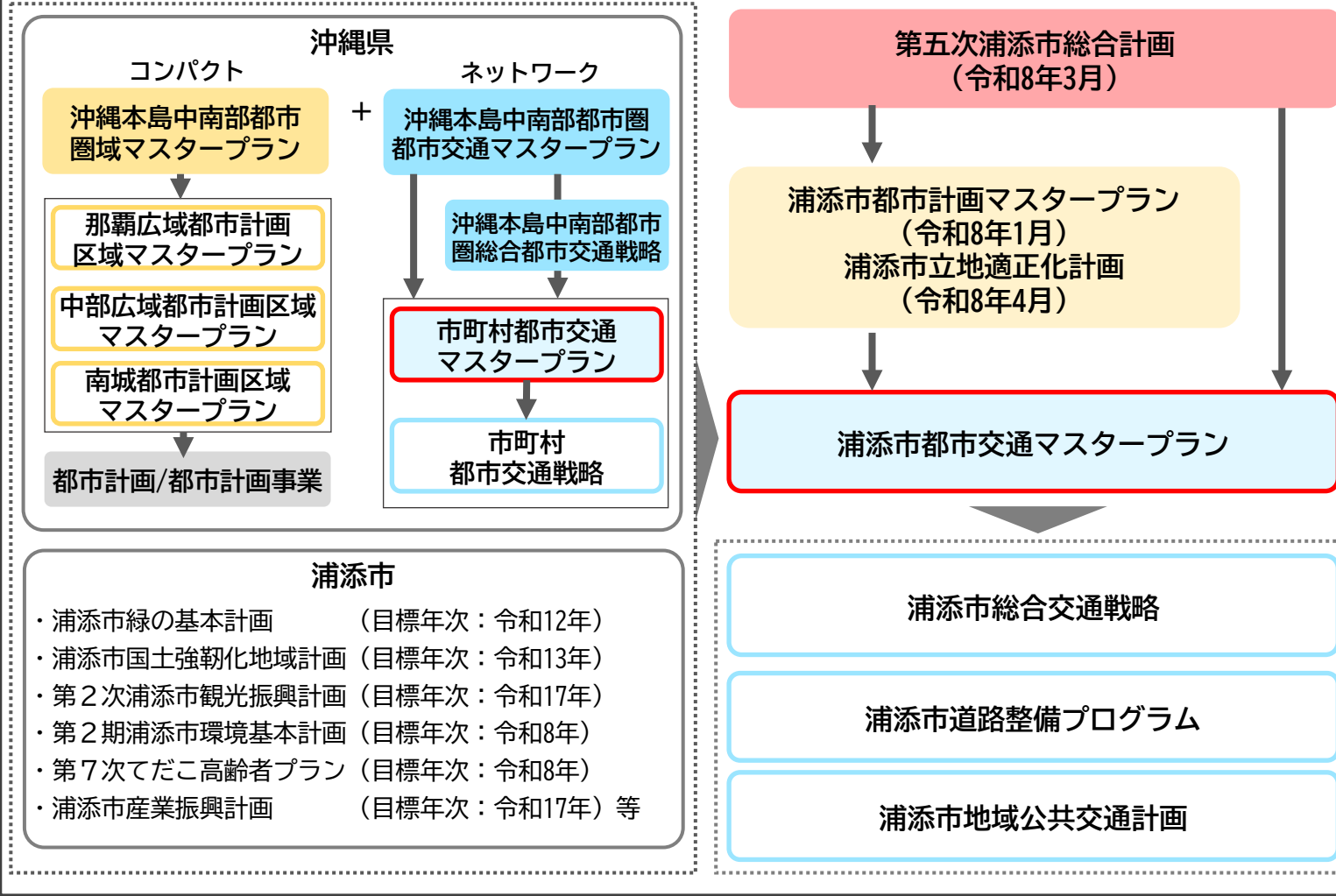
3. 対象区域



4. 計画の位置付け

浦添市都市交通マスタープランは、浦添市における交通施策を定める最上位の計画です。なお、国や県等の計画及び浦添市の計画との本計画の位置付けについては、下記に示す通りです。

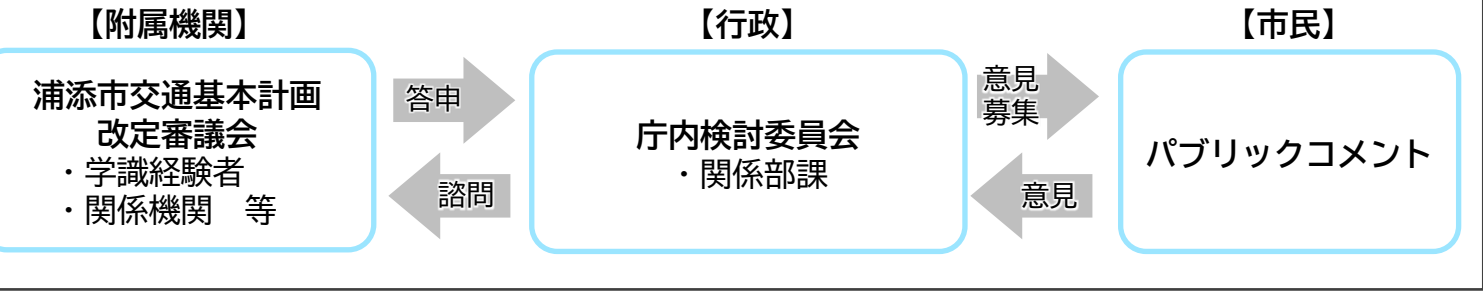
次年度以降、計画の実現に向けて、効果的・効率的な施策の展開を図る目的で、短中期的なアクションプランとしての浦添市総合交通戦略及び浦添市道路整備プログラムの改定を予定しています。



5. 改定計画の構成（案）

序章	概要【現行計画：第1章】 ・都市交通マスタープラン策定の背景や目的、位置付け、対象区域、計画期間などを整理し、本マスタープランの役割や改定の必要性等を整理します。
第1章	上位・関連計画の整理【現行計画：第2章】 ・国・県・市の上位計画や関連計画における交通施策の方向性を整理し、本マスタープランに反映すべき事項や整合性等を整理します。
第2章	浦添の交通を取り巻く現状と課題【現行計画：第2章】 ・人口動向や土地利用、道路・公共交通・歩行者・自転車交通等の現況を分析し、課題を整理します。
第3章	浦添市の交通が目指す将来像【現行計画：第3章】 ・上位計画や現況・課題及び、本市が目指す将来都市像を踏まえ、交通政策の基本理念や目指すべき交通の将来像、将来構造図を整理します。
第4章	交通の基本計画【現行計画：第4章】 ・公共交通、道路ネットワーク、交通結節点、ウォーカブル環境、安全・安心な交通基盤等の交通に関する分野別に基本計画を定めます。
第5章	基本計画を実現するための施策【現行計画：第5章】 ・基本計画の分野別に実施する具体的な施策・事業を整理し、各事業の目的や内容、実施主体、実施時期などを整理します。
第6章	施策の実現に向けて【現行計画：第5章】 ・基本方針ごとに、具体的な施策・事業を整理し、各事業の目的や内容、実施主体、実施時期、進管理の方法（PDCA）などを整理します。

6. 検討体制



7. スケジュール（案）

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
主な業務の流れ	改定計画の骨子		計画書骨子の検討		計画書（素案）の検討			計画書（案）の完成	
審議会等									
パブリックコメント	・改定の目的／概要 ・交通の現況と課題の頭出し		・改定計画の骨子 ・取組方針の示唆		・交通施策 ・実施体制		・パブコメ案 ・最終確認		

社会潮流・浦添市の現況・上位関連計画

【社会潮流】

- 持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえた取組
- ウォーカブル・健康まちづくり・ウェルビーイングの推進
- デジタル技術・DXの進展（MaaS、オンデマンド交通、自動運転等）
- カーボンニュートラルや脱炭素の実現
- 多様な働き方・職住近接の進展
- 官民連携・多様な主体によるまちづくり
- 持続可能な観光地域づくりやインバウンド回復に向けた取組
- 地球温暖化の進行・対策
- 激甚化する自然災害への対応

【県が目指す方針（都市交通マスタープラン）】

- 目指すあり方
・人中心の都市構造・社会構造「クルマに縛られず誰もが自由に移動できる社会」
- 特に対応が必要な課題
・くるまに頼らず自由に移動できる環境整備が必要
・クルマがなくても必要な場所や施設にアクセスできる環境づくりが必要
・道路の機能分担と公共交通のための空間創出が必要
・通勤や通学で公共交通を利用しやすくなる支援が必要
- 目指す都市圏
・那覇・宜野湾・沖縄の都市拠点を中心に都市圏全域で「多角連携・軸上都市構造」を形成する

【浦添が目指す方針や都市構造（上位関連計画）】

- 拠点形成・ネットワークの構築（浦添市都市計画マスタープラン／浦添市立地適正化計画）
- 緑のネットワークの形成（浦添市緑の基本計画）
- 働く場の創出・産業振興（浦添市業振興計画）
- 観光交流の促進・観光客の誘致（第2次浦添市観光振興計画）
- 公共交通不便地域の解消（浦添市地域公共交通計画）
- 安全・安心を支える道路ネットワークの構築（浦添市国土強靱化地域計画）
- 脱炭素社会の実現に向けたCO2排出量の削減（第2期浦添市環境基本計画）
- 牧港補給地区跡地及び浦添ふ頭地区の構想（牧港補給地区跡地利用計画・那覇港港湾計画）
- 高齢者の快適な移動手段の確保（浦添市高齢者保健福祉計画）

【浦添市における現行計画策定時からの変化】

- 沖縄都市モノレールの浦添市内への延長
- 国道58号浦添拡幅事業区間の8車線化
- 浦添北道路及び臨港道路浦添線の開通
- うらちゃんminiの実証運行⇒本格導入なし
- うらみーぐる号の運行開始等、高齢や外出支援事業の実施
- シェアサイクルの導入
- 観光周遊バスの導入検討等、観光客の周遊利便性向上に向けた取組
- てだこ浦西駅の交通結節点機能の強化
- 牧港補給地区跡地利用計画、那覇港港湾計画の改定、浦添ふ頭地区の整備、西海岸開発、土地区画整理事業等の新たな土地利用の推進
- 西海岸エリアの交通需要の増加
- モビリティマネジメントの推進
- 浦添総合病院の移転
- 少子高齢化等を背景としたバス等の運転手の不足

【現在の移動状況】

- 市民の公共交通利用は約4%と依然として低い状況
- 市街化区域内においても約45%が公共交通不便地域となっており、高齢者の利用が想定される施設周辺においても不便地域が存在
- 学校施設のうち約半数が公共交通不便地域に立地
- 市内19箇所ある主要渋滞箇所のうち、国道58号及び国道330号、主要地方道浦添西原線、浦添宜野湾線に集中

改定のポイント（案）

最新の将来都市構造と移動の実態を踏まえた交通体系の見直し

重点検討
ポイント①

- 都市計画マスタープラン(令和8年1月)や県のPT調査(令和8年5月)を基に、拠点間の移動や土地利用の集積状況を踏まえた職住近接を前提とした移動等において、[交通手段やルート等適切な交通体系の見直しを検討](#)します。

重点検討
ポイント②

- 浦添市観光振興計画(令和8年3月)や国の沖縄ブロック新広域道路交通ビジョン(令和3年3月)を基に、空港や周辺市街地からの新たなアクセスや観光客の来訪を見据えた[広域の移動環境との連携のあり方等について検討](#)します。

快適かつ災害に強い都市を支える実現性の高い道路網の再構築

重点検討
ポイント③

- 今後の道路整備計画の実現性や都市計画マスタープランの将来都市構造を検証し、交差点改良やリング道路の見直し、災害時の緊急輸送道路網の強化等、[道路網の再構築を検討](#)します。

重点検討
ポイント④

- 牧港補給地区跡地利用計画(令和6年3月)や那覇港港湾計画(令和5年3月)を踏まえ、交差点改良や将来の主要な道路の交通量を想定し、[新市街地を含めた将来の市全体の道路網のあり方を検討](#)します。

モノレールやバス等の公共交通のさらなる利用促進に向けた方針検討

重点検討
ポイント⑤

- 現行計画策定後の令和元年10月にモノレールが延長されたものの、公共交通の利用が約4%と低く、[公共交通環境の利用促進に向けた方針を検討](#)します。

重点検討
ポイント⑥

- 牧港補給地区跡地利用計画(令和6年3月)や那覇港港湾計画(令和5年3月)を踏まえ、[将来の都市構造を踏まえた公共交通体系のあり方を検討](#)します。

公共交通による移動が困難な状況の改善を図る持続可能な施策の検討

重点検討
ポイント⑦

- 公共交通不便地域が多くある本市において、これまでのうらちゃんminiの実証運行等の取組を踏まえ、[公共交通不便地域の改善に向けた取組方針を検討](#)します。

重点検討
ポイント⑧

- 自動車での移動が困難な高齢者や子ども等の移動の状況について、PT調査を基に把握し、[移動困難な状況を抱える方に対する取組方針等を検討](#)します。

安全で快適なウォーカブルな環境の創出に向けた方針検討

重点検討
ポイント⑨

- 歩行環境について、浦添市緑の基本計画(令和2年5月)におけるみどりの回廊や、歴史資源等と連携し、[徒歩による移動促進に向けた歩行環境の創出に向けた方針を検討](#)します。

重点検討
ポイント⑩

- 自転車や将来想定される新たなモビリティ(グリーンスローモビリティ等含む)等、[ウォーカブルと連携した移動手段の安全で快適な走行環境の整備等に関する取組方針を検討](#)します。

環境負荷の低減に対する交通政策の効果の示し方の検討

重点検討
ポイント⑪

- 沖縄県の計画や第2期浦添市環境基本計画(令和2年3月)等において脱炭素社会の実現に向けたCO2排出量の削減が目指されており、[交通政策の寄与する効果を明らかにする等、環境負荷低減の交通分野における推進方策を検討](#)する。